

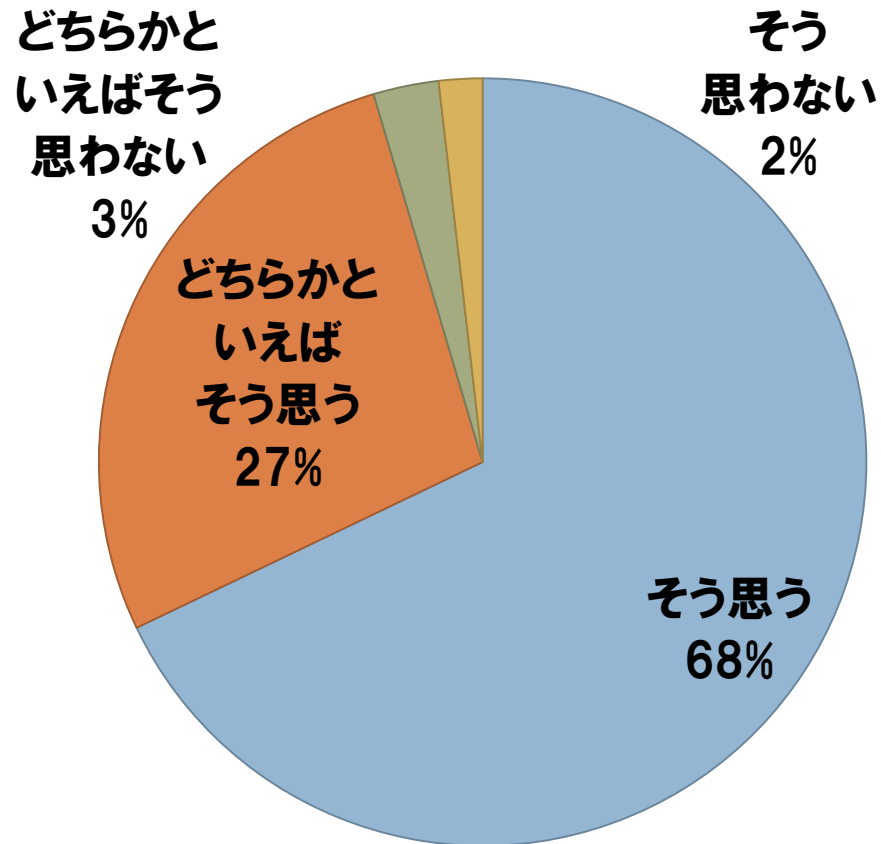
がん患者への理解と共生

がん患者や周囲の人々の気持ちを考えてみよう

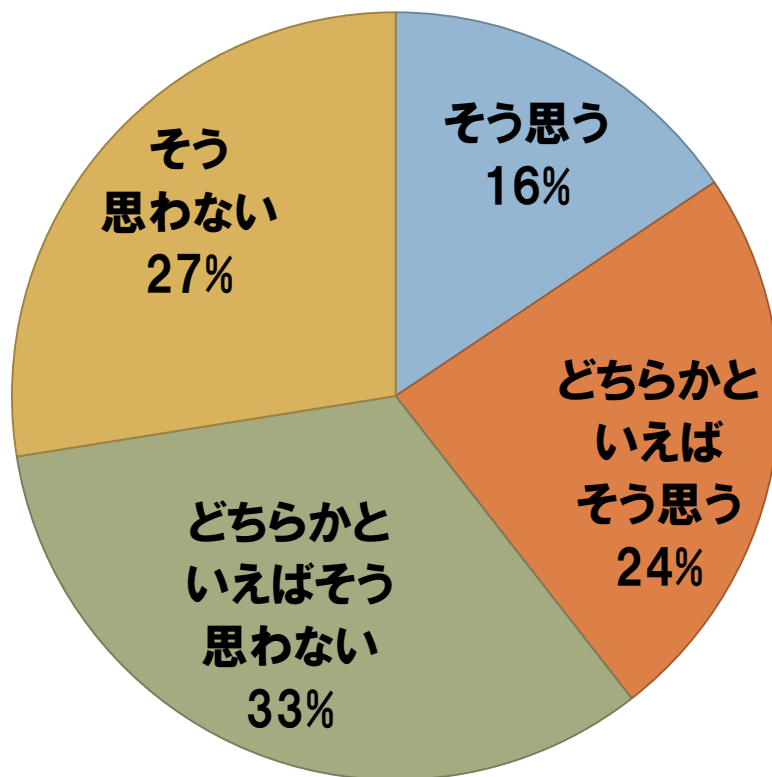


**アンケート結果を
振り返ってみよう**

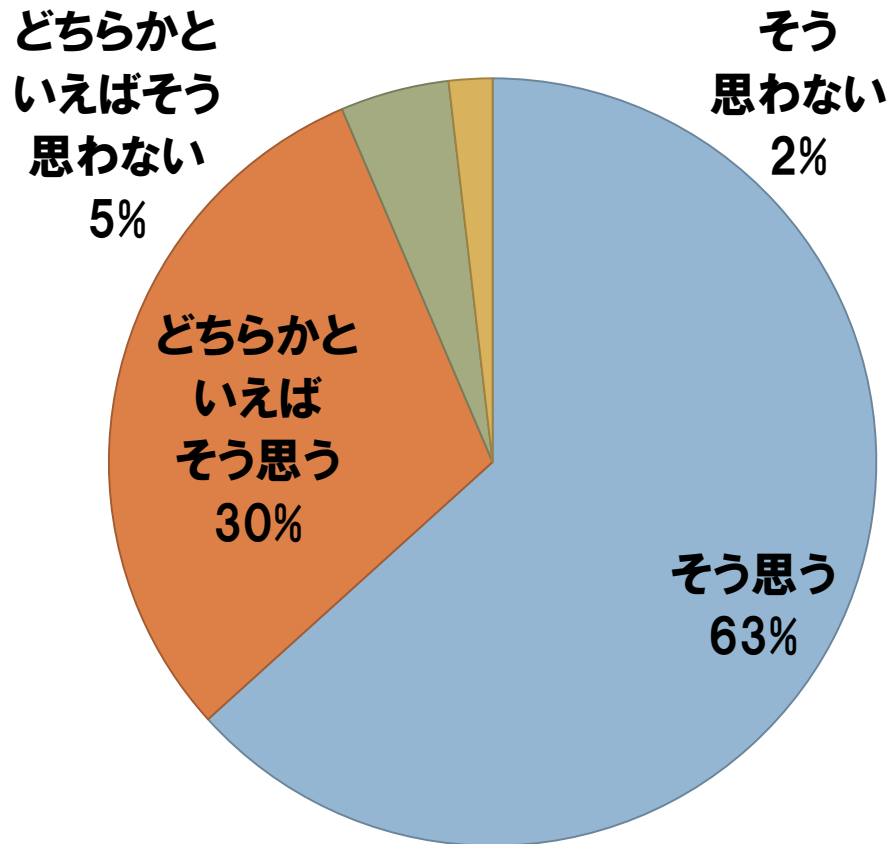
がんの学習は、 健康な生活を送るために重要だ。



自分のがんにならないと思う。



がんになっている人も 過ごしやすい世の中にしたい。



1.我が国におけるがんの現状

がんは、1981年から、日本人の死因の第1位となっています。

現在、日本人の二人に一人は、一生のうちに何らかのがんにかかると推計されています。

2.親のがんがその子供に及ぼす影響

がん患者は年々増加し、今後とも増加が続くと予想されています。がんになれば、様々な生活上の支障も出てきます。

2.親のがんがその子供に及ぼす影響

国立がん研究センターの推計によれば、親ががん患者である18歳未満の子供の総数は約8万7,000人に上ります。親のがんは、その子供にとっても深刻な問題です。

予想しよう

**親のがんが
その子供の生活に
及ぼす影響は？**

本時の目標

**がん患者や
その家族との
望ましい関わり方
について考えよう**

発問1

**もし自分が
がんにかかったら
周りの人たちに対して
どのように
接してほしいですか。**

3.がん患者とともに生きるために

友人という時は、病気とは何の関係もない自分でいられる時間です。

何でもない話をして、一緒に笑って、共に過ごすことで、「患者」としてではない、これまで通りの「自分」を取り戻せるような気がします。

『身近な人ががんになったとき地域・職場・学校で役立つがんの知識と情報』

□ (国立がん研究センターがん情報サービス)

4.『もしも、がんが再発したら』 ～本人と家族に伝えたいこと～

私にとってがんになったことは人生最悪の出来事であることには違いないけれど、それでも「がんになって悪いことばかりではなかった」と、心の底から素直に言うことができます。

発問2

なぜ

「がんになって悪いことばかりではなかった」と言えたと思いますか。

考えてみよう

がんと診断される



どのような気持ち？



がんになって悪いこと
ばかりではなかった

5. 『もしも、がんが再発したら』 ～本人と家族に伝えたいこと～

それは「自分がこれほど、周りから愛され、大切にされていた」ということがよくわかったからです。

家族はもちろん、周りの友人が本当によくしてくれました。

5. 『もしも、がんが再発したら』 ～本人と家族に伝えたいこと～

いっぱい泣きました。でも、悲しい涙よりずっと多かったのが、周りの人へ感謝するうれしい涙でした。

私はこんなにも愛され、大切に思われているのだということを、ひしひしと感ずることができ、本当にありがたく、がんになったからといって悪いことばかりじゃなかったなって思います。

〈広島県 52歳 女性〉（国立がん研究センターがん情報サービス）

発問3

**もし、がん患者を
支える家族や友人の
立場になったら、
どのように関わることが
望ましいか考えよう。**